

業 種	タクシー
取組分野	高齢化、事故、ヒヤリ・ハット情報等の収集・活用 情報伝達・コミュニケーションの確保
テ ー マ	加齢による身体機能等の変化を運転者へ自覚させる取組
取組の狙い	適性診断の結果だけでは的確に把握できない身体機能の低下具合を指導者が直に確認し、その場で運転者に伝えて指導すること、さらに、運転者自身の特性（癖）を自覚させ、事故防止につなげる。
具体的内容	<p>すみれタクシー株式会社（名古屋市）では、運転者に対し、加齢による身体機能の低下と運転者自身の特性（癖）を自覚してもらうために以下の取組を行っている。</p> <p><b>1. 取組の背景</b></p> <p>① 特に、高齢運転者は、加齢による足腰の衰えから、状況に応じた速やかなペダル操作（踏み替え、踏み込み）が遅れがちになる特性がある。</p> <p>② これまでの自社の統計から、以下の特徴が見られた。</p> <p>&lt;無事故運転者&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 危険感受性が高い</li> <li>2. 歩行者や自転車の飛び出しが予測される箇所ではブレーキペダルに足を添え、いつでもブレーキが踏める体制を準備（危険予知運転）</li> </ol> <p>&lt;事故惹起運転者&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 危険感受性が低い</li> <li>2. 危険予知運転の未実施</li> </ol> <p><b>2. 同乗指導</b></p> <p>① 上記の背景から、運転者の足元の動き（操作）は事故につながる重要事項であると位置づけ、同乗指導の際の「重要確認、指導事項」と設定。</p> <p>② 適性診断結果と実際の運転のギャップや、診断結果だけでは的確に把握することが出来ない「身体機能の低下具合」「自身の特性（癖）」を認識してもらうため、指導員が同乗して確認しその場で指導。</p> <p><b>3. 指導記録簿への記録</b></p> <p>運転者ごとの特性を的確に把握し管理するため、「指導記録簿」に「①足の動作、②視野角テスト、③認知テスト」の結果を記録。</p> <p><b>4. 課題とその対応</b></p> <p>同乗指導時は、指導事項を心がけて運転しているものの、時日の経過と</p>



ともに指導の効果が薄れてしまい、指導前の運転操作に戻ってしまうことが課題であった。

その対処法として、運転者ごとの特性を記録した「指導記録簿」を活用し、出庫点呼時に指導を繰り返し行うことで自覚を促している。

### 5. 健康促進（階段の昇降）

ふくらはぎは「第二の心臓」ともいわれ筋力の低下は血液循環を妨げることから軽い運動が欠かせないが、営業所（点呼場）が2階にあるため、必然的に階段を昇降することとなり、軽い運動になっている。

その際、運転者の呼吸の乱れが見られれば、体力の低下（足腰の衰え）を自覚するよう指導している。



また、点呼時のアルコールチェックと併せて、血圧測定を毎回行い数値の推移を観察しているほか、「CF トレーナー（Cogniteve Function Trainer）」を活用した「認知機能のチェック・トレーニング」を行い、認知機能に起因する事故の防止を図っている。



### 6. 取組に苦慮した点

適性診断票の結果に基づく運転指導には否定的な運転者もあり、特に、ベテラン運転者は運転技術に対する自負があるため、指導には配慮が必要であったが、自身では気づきにくい癖を同乗している指導員がその場で指導することで、運転者自身に腹落ちし自覚することに繋がっている。

また、CF トレーナーについては、「認知機能チェック」という名称のためか、自身のキャリアや年齢によっては嫌悪感を抱く運転者も少なくなかったが、テスト結果を元に運転者同士が歓談するシーンが増え、テスト実施に否定的だった運転者も「自分もやってみよう」と意欲的になり、自主的なテストの実施に繋がっている。

取組の効果

高齢運転者の健康促進による事故防止だけに留まらず、CF トレーナーを通じて運転者同士のコミュニケーションの機会となっており、社内の活性化に繋がっている。

事業者名

すみれタクシー株式会社（連絡先：052-301-8131）